第13回金ケ崎町民劇場

でんでらカントリー

～衛星写真に写らない郷～

1鳥海作蔵（中央）から山の話を聞き出す刑事の二人　2自分たちの「でんでら国」を想像し、盛り上がる船越たち　3何やら怪しい市議会議員の倖田正人（左）とMDクリーンの二人　4「でんでら国」を作りに作蔵の山へ向かう５人　5船越（中央）のケガをきっかけに遭遇した謎の少女（伊藤美緒）　6連絡が取れなかった友達の倖田茉莉花（中央）と再会する狩田萌華（左）　7でんでらカントリーの長・鳥海スエ（中央）から仲間に認められ、各々仕事を任される船越ら　8でんでらカントリーの次の長にならないか打診を受ける船越　9ある日、萌華がMDクリーンの竹山（左）からスマートフォンを奪われる　10でんでらカントリーには元軍人のジョン（左）も生活していた　11失踪していた妻と娘に再会し連れ戻そうとする正人だが…　12でんでらカントリーをゴミ捨て場として乗っ取ろうとするMDクリーンの社長・前田（中央）が暴走　13台風の襲来でスーパーボランティア（左）も駆け付けた　14それぞれ目標を見つけた萌華と茉莉花　15自分たちの住むまちを楽しくしていこうと進み出した４人

第13回金ケ崎町民劇場「でんでらカントリー～衛星写真に映らない郷～」は10月8日、中央生涯教育センターで上演されました。新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりの公演となった同劇場（※）。公演は午前、午後の2回行われ、町内外から計214人が来場。団員の熱のこもった演技に観客は魅了されました。

今年は第11回町民劇場（令和元年）の「でんでら国」（原作・平谷美樹さん）を、榊和也さん（南町）が現代版にアレンジして脚本と演出を担当。コロナ禍や自然災害、認知症、リモートの面会など、現代を取り巻くさまざまなテーマを組み込みつつ、ユーモアを交え、明るく希望のある物語を描きました。

町民劇場実行委員会の及川紀美子委員長が「私たちはコロナにも暑さにも負けず取り組んだ。多くの支えに感謝している。これからも町民劇場を続けていきたい」とあいさつ。家族と訪れた千葉偉月さん（金小2年）は、「皆さんの演技が上手くて面白かった。でんでらカントリーに来たところや最後のシーンでみんなが仲良くしているところが良かった」と充実した表情を見せました。

※第12回町民劇場は令和4年12月11日に朗読劇を開催

～あらすじ～

未だコロナ禍が明けない中、自治会長の船越秀一は同級生の店「スナック鰍」に60代後半の友人数人で集まり、世間話を交わす日々を過ごしていた。そんなある日、鰍のママ狩田みすずから、市街地再開発のため店が無くなることを告げられる。小説「でんでら国」に憧れる船越は、知り合いの老人、鳥海作蔵が山奥に土地を持っていることを知り、みすずや友人たちと共に自分たちの「でんでら国」を作ろうとする。

みすずの孫、萌華など若者も誘い、いざ携帯電話の電波状況も安定しない山奥の地に入って行くと、そこには既に老人や女性・子どもたちが暮らす集落が出来上がっていた。自ら「でんでらカントリー」を呼称する住人たちは、衛星写真に写らないよう住まいをカモフラージュしながら静かに隠遁生活を送っていた。

集落に歓迎され一員となる船越たち。山での暮らしに理想を求め、街との行き来を楽しんでいたが、密かに彼らをつけ狙う者がいた。妻子の行方を探す市議会議員、議員と癒着しているらしい会社の社長、そして刑事。彼らにでんでらカントリーの存在が知られ、住人たちの安全が脅かされそうになった時、船越とその仲間は集落を守るために立ち上がり対峙する。

折しも巨大台風の上陸予報が出される中、でんでらカントリーを無事に守ることができるのか、彼らが闘った先に見つけた理想の「でんでら国」とは。

Interview

狩田萌華役　土田 凪紗さん

本番独特の雰囲気があり、練習よりも役に入りきって演じることができました。皆さんが笑っているのを見れてうれしかったです。

船越秀一役　小野寺 喜美雄さん

年老いるということは誰もが通る道。それをでんでらカントリーを見た人にも感じてもらい、考えてもらえればうれしいです。

狩田みすず役　小原 優子さん

ベテランも初参加の人もいましたが、周りのサポートもあり上手くまとまっていました。みんな楽しそうに演じていて良かったです。

倖田茉莉花役　及川 実生さん

緊張しましたが、人前で歌うことは好きだったので楽しく舞台で歌えました。自分なりの“茉莉花”を演じられたと思います。

伊藤美緒役　澤田 知花さん

最初は声の大きさや“美緒”の思考に寄り添って演じることに苦労しました。初めての公演は緊張せずに演じることができました。

ジョン役　ジョセフ・クラークさん

日本語勉強中なのでミスしないように頑張りました。劇団の“一人のためではなくみんなのために”という結束が素晴らしかったです。